

学位被授与者氏名	廖 峻皓（りょう しゅんこう）
論文題目	方向補語の学習における教授法に関する研究
論文審査結果の要旨	本研究は、「方向補語」の習得が日本人学習者にとって困難であるという問題意識、及び現行の教科書や教授法に改善の余地があるかという問いから出発し、理論的・実証的分析を通じて（「ルール学習」と「PPP アプローチ」から設定した評価指標による教科書分析）、「本質的ルールと高頻度の焦点事例を動画で提示し、グループによるゲーム形式の練習活動を組み込む」という改善案を導出した。さらに、仮説を授業実践で検証し、結果を分析するまでの一連のプロセスが極めて整合性を持って構築されており、論述としての妥当性は高く評価できる。 改善策の有効性は全体として確認されたものの、学習効果が現れなかった学習者（26%）が存在することは無視できない。特に、事後テストで 1 問も正答できなかった 2 名の学習者に対しては、より詳しい原因分析と今後の指導法に関する提案が求められる。例えば、誤答内容やアンケート結果から以下の点が考えられる。① 学習内容が多すぎた可能性がある（本来 2 回に分けて学習する「単純方向補語」と「複合方向補語」を今回の授業では 1 回で指導した）。② 十分にわかりやすく提示できたか疑問が残る（アンケートに「進むスピードが速かったため、理解が追い付かなかった」といった回答があった）。③ 動画提示法によって、一部の学習者が話し手の視点（観察者）と動作主体（動作者）を混同する「影響」が生じた可能性がある（“来”と“去”の混用誤答が見られた）。これらは「考察」において言及すべき重要な視点である。 2026 年 2 月 13 日に、北九州市立大学北方キャンパス 3 号館 3-325 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(中国言語文化)として十分な内容であると判定した。